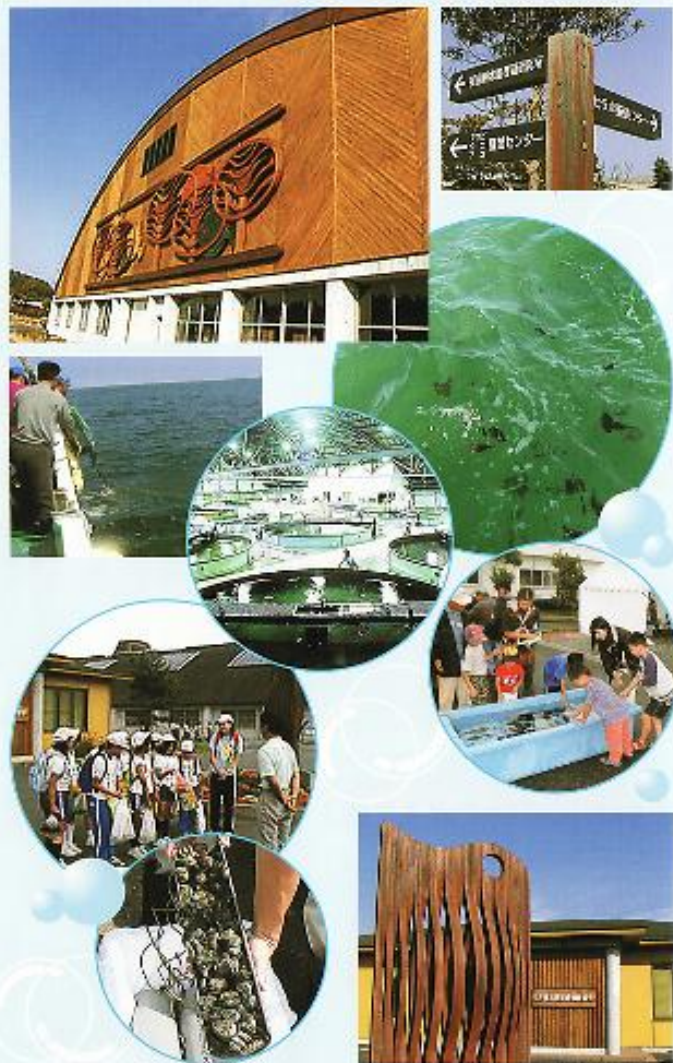


ふくしまの 栽培漁業施設要覧



(財)福島県栽培漁業協会

●栽培漁業 (farming fishery) とは

広い海域を畑とし、そこへ種苗(=稚魚)を放流し、成魚にして漁獲する資源管理型漁業の1部門です。伝統的なものとしてサケのふ化放流が有名ですが、近年では種苗の生産・放流・育成管理を行う技術の発達により、約80種に及ぶ魚介類で栽培漁業が取り組まれています。このうち主な種類はクルマエビ・ウニ類・アワビ類・ヒラメ・マダイなどがあげられます。



福島県では

ヒラメの資源を守るため、1993年(平成5年)から漁業者自らが、全長30cm未満のヒラメは【獲らない、売らない、食べない】運動を行っています。



エゾアワビの発育ステージ

わたしは、巻貝の仲間です。



浮遊幼生



着底直後



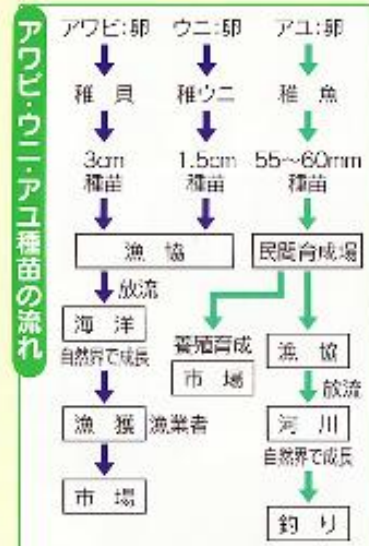
出荷サイズ(殻長3cm)



放流

福島県水産種苗研究所
アワビ・ウニ・アユ種苗生産施設

(アワビ・ウニ屋外水槽全席)



キタムラサキウニの発育ステージ

ぼくのトゲはささると痛いよ。



浮遊幼生



着底直後



出荷サイズ(殻径1.5cm)



放流



ヒラメの発育ステージ

わたしは、肉食なので歯が鋭くあごの力が強い。



親魚



ふ化仔魚



変態直前



出荷サイズ(全長10cm)

福島県水産種苗研究所附属
ヒラメ栽培漁業振興施設
(ヒラメ稚魚棟内飼育水槽全貌)

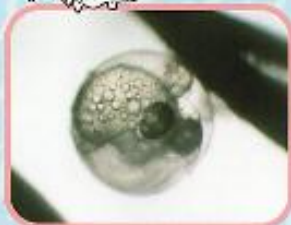


ヒラメ種苗の流れ



アユの発育ステージ

ぼくは、鮭に似ていて一回海にでるんだ。



発眼卵



ふ化仔魚



出荷サイズ(全長55~60mm)



●当協会の特徴

当協会では、現在、アワビ・ウニ・アユ・ヒラメの種苗生産を行っています。この中でもヒラメの種苗生産は、昭和62年度から始まり事業化となった平成8年度からは、ヒラメ栽培漁業振興施設で行っています。この施設の内、親魚棟・稚魚飼育棟・餌料培養棟の3棟は、塩害を避けるため、木造大断面集成材を使用した木造建築物で本県産の松や杉などが使用され、林業の振興にも貢献しています。

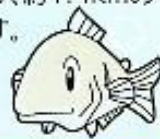
さらに、溢排水を利用している団体の中でも国内最大規模の施設です。

●取水系統

取水ポンプは、北に隣接する東京電力株式会社福島第一原子力発電所構内にあり、溢海水用として、毎時650m³の揚水能力ポンプ3台、自然海水用として毎時600m³のポンプ2台が設置され、適正な水量と水温が維持出来るようにしています。

溢海水の取水は、発電所1～4号機の放水口から揚水しています。

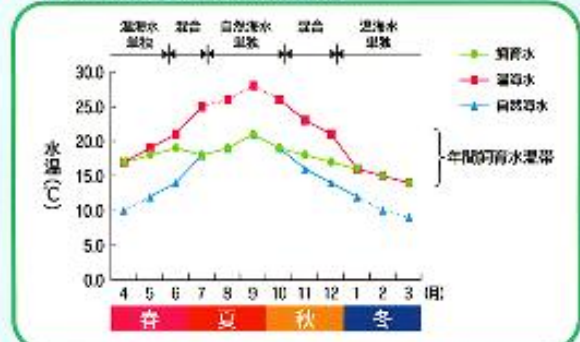
また、送水管は、直径400mmが1本、350mmが2本、200mmが1本の合計4本で、それぞれが地中埋設(一部は地上露出)されており、約1.4kmの距離を経て、濾過槽に送られています。



●生物餌料



●飼育水温の変化



溢海水のメリット

東京電力株式会社福島第一原子力発電所から出る溢海水は自然の海水より約7℃高いため、親魚(貝)の産卵時期を早めたり、稚魚(貝)の成長を促進することができます。

●施設の位置



交通の案内

- ・JR常磐線大野駅下車
- ・駅よりタクシーで約15分

(財)福島県栽培漁業協会

〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北台205番地1

TEL 0240(32)3551 FAX 0240(32)3623

URL: <http://www11.ocn.ne.jp/~fssaibal/>